

時代の潮目 天下人と渡り合う

Commentary
Masamichi Kanno



伊達政宗公騎馬像帰還記念企画
おかえりなさい、
政宗公
「伊達の気概」
ここにあり

特集 第2回

伊達政宗公への 思いをつづる

仙台藩祖伊達政宗公の騎馬像が仙台城跡に戻ってきた。昨年3月の地震で被害を受けてから1年。東京都内で修復された騎馬像は仙台への移送を終え、31日のお披露目待った。宮城・仙台のシンボルが再び雄姿を見せるのを前に、政宗公を語り尽くしたい。



郷土史研究家
菅野 正道さん
Profile
郷土史家。元仙台市史編さん室長。主な著書に「せんだい歴史の窓」(河北選書)、「昭和を走った仙台市電」(共著、河北新報出版センター)、「伊達の国の物語 政宗からはじまる仙台藩270年」(プレスアート)など。仙台市出身。

秀吉・家康と親交

伊達政宗は、やや色眼鏡で見られているところがある。その最大のもは「天下へ野望を持ち続けた」と考えられていること。実は政宗の生涯

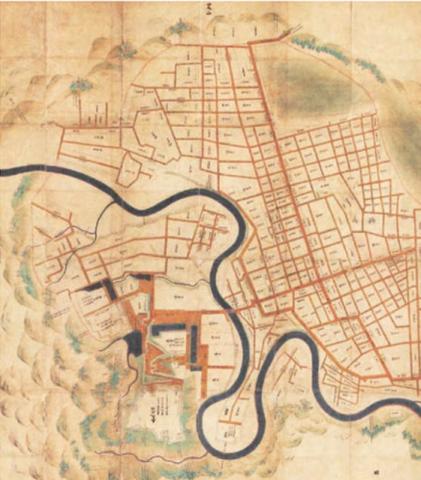
をつぶさに調べていくと逆に政宗が天下を狙おうとしたことは考えにくい状況が幾つもある。一例として、家督相続から間もない数え19の年、非戦闘員を含む籠城者数百人をなで切りにし、全滅させた小森城(福島県二本松市)



伊達政宗像。狩野安信筆。左上の漢詩は政宗の自作。酒を愛した晩年の心境を詠んだ。仙台市博物館蔵

武家文化の仙台城

仙台城は、政宗が家康の命で上杉景勝と戦っていたさなかに着工された。自然地形を



奥州仙台城絵図。幕府の命を受け仙台藩が作製した。1645年(正保2年)に描かれたと推測され、現存する最古の仙台城下絵図。仙台市博物館蔵

仙台城へ通ずる橋の擬宝珠には、師匠の虎哉宗之の詩が刻まれた。意識するなら「仙人が住む地に、広瀬川の流れば永遠に続き、人々が安んじて暮らす、豊かな国。(中国の伝説で理想の帝王とされる)堯の堯土とも肩を並べようか」といったところか。誰でも目にする場にこうした銘を刻ませたのは、領民への所信表明だったのではないか。フランス感覚に優れたオーソックスと温故知新の人。私の政宗像である。

政宗は豊臣秀吉と個人的親交を深めたが、秀吉の死の翌年には長女五郎八姫と徳川家康の六男忠輝の婚約を成立させ、家康に服従するという誓約書まで送っている。家康と政宗が強固な同盟関係にあったことは、家康が軍事拠点となる城郭の整備を江戸から西に向かったのみ進め、奥羽はほとんど意識していない点からも明らかだ。

政宗は豊臣秀吉と個人的親交を深めたが、秀吉の死の翌年には長女五郎八姫と徳川家康の六男忠輝の婚約を成立させ、家康に服従するという誓約書まで送っている。家康と政宗が強固な同盟関係にあったことは、家康が軍事拠点となる城郭の整備を江戸から西に向かったのみ進め、奥羽はほとんど意識していない点からも明らかだ。

仙台城へ通ずる橋の擬宝珠には、師匠の虎哉宗之の詩が刻まれた。意識するなら「仙人が住む地に、広瀬川の流れば永遠に続き、人々が安んじて暮らす、豊かな国。(中国の伝説で理想の帝王とされる)堯の堯土とも肩を並べようか」といったところか。誰でも目にする場にこうした銘を刻ませたのは、領民への所信表明だったのではないか。フランス感覚に優れたオーソックスと温故知新の人。私の政宗像である。

の戦いは、母の兄である最上義光に戦果を誇り、このままなら関東もたやすく手中にできると記した手紙があり、その冷酷非情と野心を示すものとされている。しかしながら、この手紙は、家督を継いでまでもなくの勝利に高揚する気持ちと油断ならない叔父に対する若者の自己アピールが表れた誇張にあふれるもの。政宗の台詞の多くは、外部の圧力でやむなく兵を挙げ、情報収集と分析の巧みさで辛勝したケースも少なくない。

中堅家臣の屋敷よりも、城に近い大町や立町など、米沢、岩出山時代から伊達家に仕えてきた町人を住まわせた御代町は、平時は商人、有事は直轄の武装集団に早変わりし、世情を問わず政宗の支えとなった。

空襲で失われた大手門は建築当時の主流よりも古い格式は高い「櫓門」形式だったし、本丸の大広間は、流石の豪華な装飾を施しつつも、室町以来の武家文化を

理想郷仙台目指す

仙台城へ通ずる橋の擬宝珠には、師匠の虎哉宗之の漢詩「仙人橋下 河水千年 民安国泰 孰与堯天」の詩が刻まれた。意識するなら「仙人が住む地に、広瀬川の流れば永遠に続き、人々が安んじて暮らす、豊かな国。(中国の伝説で理想の帝王とされる)堯の堯土とも肩を並べようか」といったところか。誰でも目にする場にこうした銘を刻ませたのは、領民への所信表明だったのではないか。フランス感覚に優れたオーソックスと温故知新の人。私の政宗像である。



躍動する筆致で、蘇った政宗公を描く

伊達政宗公騎馬像は威風凛々とし、騎馬する政宗公の姿はどの角度からみても凛々とした。今にも動き出しそうな筆致で描かれた。今にも動き出しそうな筆致で描かれた。今にも動き出しそうな筆致で描かれた。今にも動き出しそうな筆致で描かれた。

伊達政宗公の生涯 History of Date Masamune

青文字=全国の主な動き

西暦	元号	年齢	主な出来事
1567	永禄10	1	8月3日、米沢城(山形県米沢市)に生まれる
1572	元龜 3	6	資福寺(米沢)の住職となった虎哉宗乙を師とする
1573	天正元	7	織田信長、足利義昭を追放。室町幕府が滅亡
1577	天正 5	11	元服し政宗と称する
1581	天正 9	15	父・輝宗に従い、相馬氏との戦いで初陣を果たす
1582	天正10	16	本能寺の変で織田信長死去(49歳)
1584	天正12	18	父・輝宗より伊達家の家督を相続
1589	天正17	23	摺上原の戦いで勝利し、芦名氏を滅ぼす
1590	天正18	24	豊臣秀吉が小田原の北条氏を滅ぼし、全国統一
1590	天正18	24	豊臣秀吉の命により米沢城に移る
1591	天正19	25	豊臣秀吉より大崎郡西地方を与えられ、家臣・町民と共に岩出山(宮城県大崎市)に移る
1592	文禄元	26	豊臣秀吉が朝鮮出兵を行う(文禄の役)
1597	慶長 2	31	豊臣秀吉が再び朝鮮出兵を行う(慶長の役)
1598	慶長 3	32	豊臣秀吉死去(63歳)
1600	慶長 5	34	徳川家康が石田三成らの軍を関ヶ原で破る
1600	慶長 5	34	仙台城普請の縄張り始めを行う
1601	慶長 6	35	仙台城に入る
1602	慶長 7	36	岩出山から家臣・町人が仙台城下へ移住
1603	慶長 8	37	徳川家康、征夷大将軍となり江戸に幕府を開く
1605	慶長10	39	登米郡で北上川改修工事が始まる
1607	慶長12	41	塩竈神社・大崎八幡宮・陸奥国分寺薬師堂を造営
1609	慶長14	43	松島瑞巖寺造営
1610	慶長15	44	仙台城大広間造営
1613	慶長18	47	支倉六右衛門常長ら慶長遣欧使節が月浦(宮城県石巻市)から出帆
1613	慶長18	47	幕府がキリスト教を禁止
1615	元和元	49	大坂夏の陣。大坂城が落城。豊臣氏が滅亡
1616	元和 2	50	徳川家康死去(75歳)
1620	元和 6	54	支倉六右衛門常長が仙台に帰着。領内でのキリスト教を禁止
1626	寛永 3	60	川村孫兵衛重吉が北上川改修工事を完成させる
1628	寛永 5	62	若林城へ移る
1629	寛永 6	63	この頃、仙台城下の四ツ谷堰が完成
1635	寛永12	69	幕府が武家諸法度を改定。外様大名に参勤交代を命じる
1636	寛永13	70	5月24日、死去。遺骸は経ヶ峯に埋葬
1637	寛永14		前年秋に起工した政宗の霊廟・瑞鳳殿が完成

■参考文献…「図説 伊達政宗」(仙台市博物館編、河出書房新社) / 「特別展 伊達政宗-生涯450年記念」(仙台市博物館) / 「城下町仙台ポットガイド」(仙台市博物館) / 「ジュニア版 伊達政宗」(仙台市博物館)

左記文献をもとに年表作成

仙台市博物館は改修工事のため休館中。2024年4月再開予定



子どもたちに誇れるしごとを。

いつの時代も変わることのない、子どもたちが空想する夢の世界。
「こんなものがあたらいいな」「いつかきつとつくりたい」
私たちの夢や希望は、自然の中で身近な道具を使ってカタチにしたあの頃から、少しも変わることがありません。
ずっと思い描いてきた未来を建造物に込めて、次の世代に伝えていく。
それが、私たち清水建設の「しごと」です。

